

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	障がい福祉センター 幼児発達支援室			
○保護者評価実施期間	2025年1月9日 ～ 2025年1月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	60	(回答者数)	32
○従業者評価実施期間	2025年2月1日 ～ 2025年2月21日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数)	12
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月21日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育経験豊富な職員が多く、日々の活動・環境整備などについて、工夫しながら取り組みることができる。	落ち着くことができるスペースを作るために、ダンボールの仕切りなど応急処置をしたり、場面に応じた対応を工夫している。	室内環境だけではなく、室外の環境整備を行い、物品の整理収納を行うことで、空きスペースを作る。空きスペースを子どもたちが有効に利用できるスペースに変えていく。
2	ペアレントトレーニングや保護者向け講座を実施し好評を得ている。	前年度、土曜日に行っていた保護者講演会を、保護者アンケートにより、平日開催にした。参加人数はあまり伸びなかったが、参加した保護者からは好評をいただいた。	新年度、なるべく早い段階で周知し、参加予定を立ててもらう。保護者講演会については5階ホールを利用し、多くの保護者に対して参加を呼び掛ける。
3	楽しく通所することができ、また来たいと思える。	新しく何かが出来たときばかりではなく、日々の中でほめる場面を多く持ち、望ましい行動を増やしていく指導を行うため、笑顔やプラスの声掛けが多くなっている。 個別支援計画の作成などを通して、担任は自分のクラスだけではなく、他クラスの子どもについても把握している。	スーパーバイザーとのケース検討やティーチャーズトレーニングを行うことで、ケースの見方や対応方法についての共通理解をさらに深める。 会議の効率化をはかり、子どもたちについて報告・検討できる時間を多く持つようにする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	部屋が最低限しかない。施設改修を行う予定はないため 落ち着けるスペースを、工夫しながら作っていくことが必要である。	部屋の数を決まっているが、部屋でないスペースには収納できない物品が置かれている。	廊下のスペースを整理し、簡易的な衝立を利用した個室的なスペースを作る。
2	保護者との連絡方法が、紙や口頭、電話しかない。	公立施設のため、職員の異動が定期的にあり、連絡のツールが不足していることを、引継ぎできていなかった。 個人情報の保護・情報システム上の検討が必要で、非常に煩雑な検討や準備が必要なため、取り組む体制が取れなかった。	新年度より、足立区の電子通知システムを利用することで、メールによる一斉通知ができるようにする。 その後、導入準備ができ次第、保育所等業務支援システムを導入し、スムーズな情報の伝達ができるようにしていく。
3	保護者から「わからない」「どちらともいえない」との回答が多かった。	伝える機会は持っているが、年度途中にも入退所する方がいるため、年間の予定通り進めていると、伝わらない方が出てしまう。「わかりやすく」「印象的に」伝えることができていないのではないかと。	保護者連絡会・保護者講演会等、保護者参加の行事になるべく多く来ていただけるよう働きかける。配布する資料については、さらに分かりやすく作成する。 ICTツールの導入後は、必要な連絡を一斉送信し、すみやかな情報の共有を実現していく。必要な情報がいつでも検索すれば見られるよう資料を整えていく。